

町長の定期便

第6回

災害復旧に朗報

暑かった夏も去り、実りの秋になりました。水田では稲穂が黄色く熟れ、台風が来なければよい出来秋になりそうです。9月2日には、町農林振興公社の稲刈り受託作業の開始式を開き、豊作と作業の安全を祈り、各ほ場に向けて出発しました。

さて、「7月豪雨」では、町内各地で大きな被害を受けました。現在、被災された皆さんと、急ぐところ・出来ることから復旧を始めています。10月に予定されている災害査定に向けての準備や、必要な予算計上をしなくてはなりません。

ところで、先日は国土交通省からうれしい便りが届きました。8月14日付で「災害関連緊急砂防事業」を日野町の4か所で採択したとのこと。この中には金持地内での床上・床下浸水で心配をおかけした所や、国道180号が不通となった下菅の黒谷川が含まれています。また「災害関連緊急治山事業」でも1か所採択されました。総事業費は約10億円が見込まれているところです。この事業の実施主体は県ですが、町の負担は全くなく、金額が国と県で負担されます。財政難の我がまちにとってありがたいことです。町の現状をよく理解していただいた国土交通省、財務省や鳥取県など、ご支援いただいた皆さんに熱く感謝申し上げます。

今後は、災害を最小限に食い止めるべく、関係者一丸となって災害予防に努め、安心・安全なまちづくりを目指します。よろしくお願いいたします。(9月4日記)

日野町長 景山 享弘

こげなん あったて!

「根雨小児童が珍しい化石を発掘したらしいぞ!」との情報をいただき、さっそく根雨小学校へ行ってみました!すると、ありましたありました!「ホラドミア」と呼ばれる二枚貝の化石です。



化石は長さ8センチほど

発掘したのは、根雨小学校の5年生、中山翼さん(写真左)と松原啓文さん(同右)。二人は8月1日に日南町で開かれた「理科リーダー講習会」に参加し、多里の地層を発掘していたところ、松原さんが岩のすき間にこの化石があるのを発見、中山さんと協力して発掘したということです。

ホラドミアは、約500万~2500万年前くらい昔の幻の化石と呼ばれ、もともと海の底だった多里の地層は、この化石を産出したことで学会でも早くから注目されてきたとのこと。

感想を聞くと、松原さんは「たがねとハンマーを使って岩から掘り出すのが大変でした」と、中山さんは「そんなに珍しい物には見えなかったけどうれしかった」と話してくれました。

発掘に立ち会った鳥取大学の先生から「大切にしまっておくように」と言われたそうで、少し緊張気味の二人でした。



ちょっぴり得意げな中山さん、松原さん



『ラジオ体操、一、二、三』
撮影 山根 茂さん(根雨)

オシドリ だくす

Vol. 103



残暑厳しい中、「手伝うよ」と大勢の方が観察小屋周辺の作業をしてくださいました。水で流された場所を土のう袋で補強してもらい、流木などで大変だったエサ場もきれいになりました。オシドリを迎える準備はボランティアの皆さんのおかげで着実に進んでいます。少しずつエサも届いています。早いもので、オシドリのシーズンはもう目の前です。

【連絡先】 オシドリグループ事務局

森田(電話72 0271)